

行事予定 (2011年)

- 6月10日(金) 第二回全国幹事会
- 6月10日(金) 第1回生涯教育講演会
- 6月10日(金) 第21回日本臨床検査専門
~11日(土) 医会春季大会および
第38回総会
- 7月22日(金) 第28回臨床検査振興
セミナー
- 10月14日(金) 第二回常任幹事会
- 11月17日(木) 第三回全国幹事会および
第39回総会
- 12月16日(金) 第三回常任幹事会

巻頭言

日本臨床検査専門医会
全国幹事 田窪 孝行

臨床検査における精度管理

最近、国内への ISO15189 の定着により内部精度管理の考え方が大きく変わりつつある。

従来は、外部精度管理の中心値を「真値」としてこれに検査室の分析系を合せていくことが一般的であった。しかし、今日、国際標準物質などへのトレーサビリティと「検査結果の不確かさ」で示される基準物質を使った「校正」の概念が一般化しつつある。臨床検査機器を基準物質で校正し、日々の精度は内部精度管理で維持していくというものである。この場合、外部精度管理結果は参考値となる。すべての施設が後者の精度管理を導入していると問題ないが、未だに多くの施設は前者の旧来からの考え方で運用されているのではないだろうか。その場合、外部精度管理参加施設全体の平均値と後者施設の母集団が二つ存在することになる。

加えて事情を複雑にする要因がある。それは、メーカーが提供するメーカー標準物質に依存している施設からのデータである。最近、多くのメーカーが国際的な標準物質や標準測定操作法へのトレーサビリティを確保していると報告している。しかし、公的な外部精度管理調査では、依然、方法間差は存在している。

施設に臨床検査分野の指導的立場にいる人々がいる場合は妥当な判断を下されて、外部精度管理の「平均値」に目を奪われることはないと思う。しかし、メーカーの提供する臨床検査機器と標準物質に依存して検査結果を提供している施設においては、これらの状況は把握されていないのではないか。

このことから、様々な外部精度管理調査が実施される今日、何を自施設の検査値の根拠とするかを見極めるための「目」が要求されているように感じる。

【目次】

- p.1 巻頭言：臨床検査における精度管理
- p.2 事務局からのお知らせ、平成23年度の行事予定のお知らせ、第1回生涯教育講演会のお知らせ、教育セミナー報告
- p.3 今後の春季大会日程：第22回日本臨床検査専門医会春季大会、会費納入について、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、第21回日本臨床検査専門医会春季大会、第21回臨床検査専門医会春季大会は予定通り開催します！
- p.4 会員の声：臨床検査専門医になって、専門医試験受験記
- p.5 (会員の声)「渡りに船」の臨床検査専門医試験
- p.6 (会員の声)臨床検査専門医への道、編集後記



ハスキー
(具満タンより)

JACLaP NEWS 編集室 金子 誠(編集主幹)

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院 検査部内

TEL: 03-3815-5411 内線 35005/Fax: 03-5689-0495

E-mail: mkaneko-kkr@umin.ac.jp

平成 23 年 5 月 8 日(日)、自治医科大学にて山田俊幸教授の担当で、28 名が参加して行われました。

来年度の教育セミナーについては 11 月以降に詳細が決定します。決まり次第会員の先生方に通知する予定です。それ以前のお問い合わせに対してはご回答できませんので、ご了承ください。

【今後の春季大会日程】

第 22 回日本臨床検査専門医会春季大会

大会長：日野田裕治 教授(山口大学大学院医学系研究科
臨床検査・腫瘍学分野)

開催日時：平成 24 年 3 月 23 日(金)、24 日(土)

開催場所：山口大学医学部霜仁会館、宇部国際ホテル

【会費納入について】

平成 23 年度の会費の振込をお願い致します。未納分のある会員の方々は二重線で金額を訂正・ご捺印の上、合計額をお振込ください。(納入状況は振込用紙に記載しております。)

年会費：正会員：1 万円 (有効会員：5,000 円)

郵便振り込み口座：00100-3-20509

加入者名：日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振り込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせください。

尚、東北地方の一部地域(青森、岩手、宮城、福島、茨城)の先生方への会費請求を見合わせておりましたが、5 月下旬～6 月初旬頃に請求書を送付させていただきます。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にともなって定期刊行物、JACLaP WIRE など電子メールの連絡が着かなくなる会員がいます。

勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項は本年度会費の振り込み用紙に記載するか、ホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送りください。

【第 21 回日本臨床検査専門医会春季大会】

《プログラム》

平成 23 年 6 月 10 日(金)

18:00～ 特別講演

司会 諏訪部 章(岩手医科大学医学部臨床検査医学)

『東日本大震災における医療支援の現状と問題点』

岩手医科大学学長(前全国医学部長病院長会議会長)
小川 彰

平成 23 年 6 月 11 日(土)

9:00 受付開始

9:25 開会挨拶 諏訪部 章

(岩手医科大学医学部臨床検査医学講座)

9:30～11:30 シンポジウム I

「検査専門医による横断的診療支援」

司会 高橋伯夫(関西医科大学附属枚方病院臨床検査医学)
一山 智(京都大学医学部臨床病態検査学)

1. 「当院検査部での BSC および年間行動計画の作成と業績発表会の実施」

神尾多喜浩(済生会熊本病院中央検査部)

2. 「電子カルテ『掲示板』機能を活用したコメント記載による診療貢献」

木村 聡(昭和大学横浜市北部病院臨床検査科)

3. 「検体検査管理医としての働き」

橋本琢磨(公立能登総合病院)

4. 「輸血業務における検査医の役割」

鈴木啓二郎(岩手医科大学医学部臨床検査医学)

5. 「感染制御・感染症診療における検査医の役割」

八田益充(東北大学大学院医学系研究科内科
病態学講座感染制御・検査診断学分野)

6. 総合討論

11:30～12:30 ランチョンセッション

「検体管理加算(IV)は病院運営に貢献できたか」

司会 宮澤幸久(帝京大学医学部名誉教授、
帝京大学医療技術学部)

1. 「私立医大のアンケート調査から」

池淵研二(埼玉医科大学病院中央検査部、
輸血・細胞移植部)

2. 「研修指定病院(市中病院)の立場から」

齋藤勝彦(富山市民病院中央研究検査部)

3. 「次期診療報酬改定と検体管理加算(IV)」

東條尚子(東京医科歯科大医学部附属病院検査部)

12:30～13:00 総会

13:00～15:00 シンポジウム II 「臨床検査科はどうなった?
～実践施設の検査専門医に聞く～」

司会 村田 満(慶應義塾大学医学部臨床検査医学)

萱場広之(秋田大学大学院医学研究科
感染・免疫アレルギー・病態検査学講座)

1. 「血栓・止血異常診療センターの役割について」

和田英夫(三重大学大学院医学系研究科病態解明学講座
検査医学分野)

2. 「検査カフェと臨床検査科」

安東由喜雄(熊本大学大学院生命科学部
病態情報解析学分野)

3. 「遺伝診療外来と臨床検査科」

末広 寛(山口大学大学院医学系研究科臨床検査・
腫瘍学分野)

4. 「術前スクリーニングにおける臨床検査科の役割」

村上正巳(群馬大学大学院医学系研究科病態検査医学)

5. 【特別発言】「検査専門医と広域診療支援」

～医師会とのネットワークの必要性～
菅野剛史(三菱化学メディエンス、浜松医大名誉教授)

6. 総合討論

15:00～15:30 会長講演

司会 渡辺清明(日本臨床検査専門医会 会長)

【緊急報告】

「東日本大震災における医療支援と検査専門医の役割」
～被災地の診療支援に必要な臨床検査を考える～

諏訪部 章(岩手医科大学医学部臨床検査医学)

15:30 次期会長挨拶 日野田裕治(山口大学大学院医学研究
科臨床検査・腫瘍学分野)

15:35 閉会の挨拶 諏訪部 章(岩手医科大学医学部
臨床検査医学)

事務局 〒020-8505 盛岡市内丸 19-1

岩手医科大学医学部臨床検査医学講座内

代表 小笠原 理恵

TEL: 019-651-5111(3249) FAX: 019-624-5030

e-mail: rogasawa@iwate-med.ac.jp

第 21 回臨床検査専門医会春季大会は予定通り開催します！

平成 23 年 3 月 11 日(金)に東北地方太平洋沖大地震が発生し、その後に発生した大津波が東日本の太平洋沿岸一帯を襲いました。東日本大震災の始まりでした。

この震災は国難ともいわれる大被害で、学会・研究会を含む各種催しが次々とキャンセルされ自粛ムードが日本全国に広がりつつある中、第 21 回臨床検査専門医会春季大会の開催も危ぶまれました。しかし、日本臨床検査専門医会の渡辺清明会長をはじめとする常任幹事の先生方のご英断で、本春季大会は予定通り盛岡の地で開催されることが決定しました。

当初の大会テーマは、「臨床検査専門医の新たな挑戦」と題し、全国で斬新な取り組みを行っている検査専門医の報告をもとに、我々の目指す方向について活発な討論を行う予定としておりました。このテーマに、この度の災害での医療支援の内容も加えることとし、10 日の特別講演は「東日本大震災における医療支援の現状と問題点」と題した当大学小川彰学長から講演をいただく予定です。また、緊急報告として「東日本大震災における医療支援と検査専門医の役割～被災地の診療支援に必要な臨床検査を考える～」と題した会長講演を急ぎよ設定しました。

盛岡名物「ちやぐちやぐ馬コ」も予定通り開催されることが決定しました。しかし、震災の影響で例年のルートが変更され、会場付近を通過しない可能性があるため、特に見学時間は設けないことにしました。もしどうしても見学したいという参加者は、通過ルートは徒歩圏内ですのでこっそりと会場を抜けだして見学していただければと思います。

今大会は、被災地岩手県での開催ということもあり、会場内には義援金の募金箱を設置するとともに、大会運営費に余剰が生じた場合には全額日本赤十字社に寄付を行うなどチャリティー色の濃い大会にしたいと考えています。また、三陸鉄道では、三陸地区の震災、津波による被災状況を理解していただき、復興の支援につなげる事を目的とした「被災地フロントライン研修」を実施しております。詳細は大会ホームページ (<http://rods777.ddo.jp/~s002/21syunki.htm>) をご覧ください。

4 月 29 日には 50 日ぶりに東北新幹線も全線開通し盛岡へのアクセスはまったく問題ありません。ただし、安全のため徐行運転を行っておりますため、所要時間は以前より約 1 時間ほど多くかかり 3 時間 20 分前後となっております。時間に余裕をもってお越しください。

たくさんの方々に参加していただくことで岩手県の経済が活性化されれば、今後の長期にわたる三陸の被災地支援に貢献できると期待しております。検査専門医の皆さん、ぜひ盛岡にお越しいただき、災害復興にまい進する我々や地元の被災者を応援してください！ 宜しく申し上げます。

(大会長・岩手医科大学医学部臨床検査医学講座・諏訪部章)

【会員の声】

臨床検査専門医になって

神戸大学立証検査医学の杉山と申します。まずは自己紹介も兼ねて、現在の所属部署の紹介をさせていただきます。『立証検査医学』という言葉は“Evidence-Based Laboratory Medicine”を意識したもので、2004 年 10 月からシスメックス社の御厚意で設置された寄付部門です。“Evidence-Based”という言葉もあるように、臨床検査分野を中心とした Evidence の構築・発信を柱の一つとしており、専門としております医学統計学・臨床疫学の観点から臨床検査医学にささやかながら関与しているというのが今の私の立場です。そんなわけで、普段はデータや統計ソフトを扱っている極めて“dry labo”な人間であり、臨床検査専門医試験で求められる“wet labo”的な部分とは縁遠い生活を送っておりまして、特に実技試験には大変苦戦致しました。

昨年度受験の際は「学会の入会年限からまだ受験資格がないのでは？」と考えていたので、受験するつもりがなかったのですが、4 月下旬に非常勤講師として来られたある先生

が「君は受験資格があるよだから、受けてみたら？」という『一声』から、あわてて願書を取り寄せました。既に教育セミナーの参加申し込みは過ぎていたため、参加セミナーを受けずに受験するという『冒険』をした結果……難関とされる輸血と微生物を再受験するという結果になりました。今年度はその反省を踏まえ、教育セミナーにもしっかり参加させていただいたのに加え、学内においても検査部・輸血部の皆様に御協力頂き、何度も『個人レッスン』をして頂きました(その甲斐もあって、グラム染色の染色は多少上手になったような気が致します)。おかげさまで、どうか今年度は試験に合格させて頂き、この手記を書かせて頂いている次第です。

今後の抱負としては、臨床検査医学関連分野の教官という立場でもありますので、臨床検査医学の教育に微力ながら尽力して行きたいと考えています。残念ながら、神戸大学は臨床検査医学を担当する教授が空席という状態(2010 年末現在)ですが、私を含めて臨床検査専門医が 4 名在籍しており、今年度同様に来年度も引き続き一致協力して臨床検査医学の魅力というものを学生等に伝えていければと思っています。

また、DPC 制度上では、包括算定内の項目であった検体検査管理加算が機能評価係数 I に含まれるように変更になりました。加えて、同加算はドクターフィー的な要素が強いため、病理診断・判断料のように出来高算定にした方がよいのではないかという声が上がっているようです。このような状況の中で、臨床検査を専門に扱う臨床検査専門医の必要性・重要性がより一層認められるよう、研鑽を積んで行きたいと考えております。

皆様の御指導・御鞭撻の方、よろしくお願い申し上げます。

(神戸大学大学院医学研究科内科系講座臨床検査・免疫学分野立証検査医学部門 杉山 大典)

専門医試験受験記

2010 年の専門医試験に合格させて頂きました。足かけ 7 ヶ月の嵐の日々でした。拙いですが、以下経験を記しますので、情報の少なさを躊躇している先生方の背中を押す一助に、また準備進まず切羽詰まられた際の心の支えになれば幸いです。

受験の動機は不純です。2011 年 6 月の専門医会春季大会の事務局長を拝命しました。これも何かのきっかけ、専門医合格をもぎ取らせて戴こうと思いました。

2010 年 2 月に専門医会に入会、4 月下旬からの 3 回のセミナー受講を申し込みました。2011 年はこのうち GLM セミナーが生涯教育講演会になるそうです。GLM セミナーは検査室運営管理の学習で、グループ討議などで他施設の先生方と交流のきっかけができて、大変心強かったです。後 2 回のセミナーは講義と実習で、この資料とメモが試験に重要です。名刺とデジカメ、オンラインストレージが情報収集に役立ちました。受講者で情報発信して下さる先生方も現れ、以降は刺激となる貴重な情報も沢山戴きました。様々な形でご指導戴いた先生方には感謝の限りです。

出願書類の準備はなかなか大変でした。セミナー開催期間と重なる時期だったので週末が使えなかったせいもありますが、書類に漏れがないかぎりぎりまで確認して、郵便局の時間外窓口に飛び込んだ記憶があります。これから受験される先生方には、早いうちに 2010 年試験実施要項を読まれ必要そうな書類を揃えておかれることをお勧めします。

準備はセミナーの復習に尽きました。資料すべて挟んだファイルを常時携行、暇を盗んで読みました。実技では苦手な輸血検査の特訓ばかりしていた気がします。途中 1 ヶ月程 FIFA W 杯南アフリカ大会で集中が逸れ、ほぼ毎夜観戦したことを告白しお詫びします。決勝後は狼狽と猛暑と悪あがきの記憶しかありません。

7月末の試験は2日にわたり、土曜午後3時間は筆記、日曜全日は一般・血液・微生物・免疫各検査の実技試験でした。筆記は1科目あたり必須・選択問題合わせて数問、とにかく書き込みましたが、多量で、十分検討できないまま答案提出でした。翌日の実技試験は、1科目1部屋、全4部屋を班ごとに移動して受けます。さらに輸血を除いて、1科目に数項目の出題があり、1部屋中の各コーナーを回って受けます。ですから実技試験当日の試験監督とスタッフは受験者より多く、さらに臨床検査分野の先生数はまだまだ限られているのか、私ですら顔を存じ上げている先生が沢山でした。ご講演・ご講義くださった先生方のそばで、リアルタイムにへぼ回答を積み重ねてゆくこの不孝。だめ受験生の身にも流石に染みて、冷汗三斗の思いでした。

ここから受験してみても個人的に重要と思った点を列記します。

1. 範囲が広いと誘惑に駆られますが、苦手科目もあきらめないでください。全分野にある程度通じていることも専門医の条件、なのです。

2. 実技や口頭試問では二次災害を防ぎましょう。頭が真っ白になったときは、あえて試験監督の先生に「あがっています」と伝えてしまうと精神的に楽になります。試験監督は厳格ですが暖かい目でも見てくださいますので、プレッシャーを取り除き、よい雰囲気を作りながら、ペースを取り戻してください。自滅はもったいないです。

3. 実技では、微生物検査であれば薬剤耐性傾向まで踏まえての結論、輸血検査であれば必要な輸血製剤・量まで理解した上での結論が要求されます。知識を体系づけるように意識して学べば、実際の設問のストーリーも汲めるでしょう。また従前言われているとおりですが、免疫検査は同時に出題される問題量も多く、事前の実技練習が大事なことが身にしました。

4. 検査部で以前質問されたことも出題されました。日々の修行も大事です。

今これを書きながらも、口と手が震えていたのを思い出す程緊張した試験でした。裏返せばこれだけ濃厚な試験を実施する側の先生方もどれだけ大変だったことか。お世話になった皆様本当に有り難うございました。それでは6月、準備を整えて盛岡でお待ちしております！

・・・と書き終え、春待つ心と年度末の気忙しさのなか過ごしていた3月11日、東日本を大地震が襲いました。当地では被害は殆どありませんでした。しかし後に報道でこの震災の恐ろしい顔を知り、呆然としました。離れた地域でも映像に接した方はショックが強かったことでしょう。お見舞いいただいた皆様、本当に有り難うございました。この場を借りて御礼いたします。

当大学も沿岸地域の支援態勢をしき、今も警察でヘリコプターの音がします。今しばらくはご不便をおかけしますが、東北は再起に向けがんばっております。なんととっても岩手は関東大震災の折りの帝都復興院総裁、後藤新平のふるさどです。偉大な先人にも見守られて復興は成し遂げられるでしょう。本体験記の前振りにした春季大会も、現時点では開催は不明です。いつかはわかりませんが、先生方にお目もじかなう折には笑顔でいられますように。それまで皆様お元気で活躍されますよう、盛岡よりお祈りしております。さようなら。※春季大会は開催が決定しました。

(岩手医科大学臨床検査医学講座 小笠原理恵)

「渡りに船」の臨床検査専門医試験

臨床検査専門医の皆様、こんにちは。私は内科、病理の大学院、産休などを経て、平成17年より、徳島赤十字病院というところで勤務している女医です。できそこないの研修医

だったはずが、いつのまにかアラフォーと呼ばれる世代になりました(笑)。

私が勤務する徳島赤十字病院は、徳島県の南部である小松島市に位置し、急性期医療とくに循環器疾患を得意としており、ベッド数は405床、初期研修医は2011年3月現在で21名います。

当院検査部は合計32名で、365日24時間全項目に対応しています。当初は、剖検が多く、病理部医師増員として赴任しましたが、先代の検査部長の異動に伴い、平成19年検査部副部長(部長不在)として検査部所属となりました。以後、病理業務の補助と、臨床検査管理加算(IV)専任として検査室管理を行っています。

当院検査部は以前からCAP(米国病理学会)についてISO15189認定を、H17年、北海道大学検査部さんと同時に病院の検査室として日本で最初に取得していたのですが、運悪く(?)検査部副部長となるや否や、ISO15189サーベイランス受審が待っていました。品質方針、倫理方針、マネジメントレビュー会議、臨床検査適正化委員会、人事etc。「これ何。みんな私の仕事?」、ISO用語、精度管理用語、各検査機器の標準物質の名前すら聞いたことなく「???」。部員はがんばっているし、ISO15189の病院の前例はないし、今までの経験だけでは到底こなしきれない。そんなこんなで、病理専門医試験の次に、臨床検査専門医試験を受験することにしました。

夏の検査医の試験勉強は、暑く苦しく、詰めても詰めても、頭から知識がこぼれおち、いかに内科時代に多くのことを積み残して病理に来てしまったか、眩暈がしました。試験当日は、山梨大学病理講座の山根徹先生と、疲れていたのか、なぜか試験とほとんど関係ない『寄生虫』の話で意気投合し、いい年してモスバーガーで山のように資料を開いて唸りながら試験勉強したことが、懐かしく思い出されます。

合格してから現場に戻ると、毎日検査技師さんとお話しする中で、思った以上に試験の内容が役立ちます。病理標本の所見も、検査全体の中で眺めると意味が違って見えます。研修医に対しては、平成19年から、初期研修医に1週間の検査/病理部研修を準必修としていますが、受験をはずみに、初期研修医と若手医師対象に、グラム染色勉強会を追加しました。概ね好評で、初期研修医の毎年1~2名はさらに検査/病理部研修を選択or延長してくれます。研修医指導は、ちょうど高校野球(臨床)をエラーで締めくくった元球児(私)が、監督になり高校生(研修医)に甲子園行き(立派な臨床医)を指導するような気分です。

さて、GLM(good laboratory management)セミナーについても是非書いておきたいと思います。

子育て中のセミナー出席は正直つらかったし、ブレインストーミングは休む暇なく大変でしたが、BSC(balanced score card)法には開眼させられました。たまたま自分の考え方であったのだらうと思います。政治や経済同様、病院を取り巻く環境は激変し、癌患者の急増など常に新しい局面ばかりです。ISO15189の予防処置にも通ずる、ボトムアップかつ



2009年度のグラム染色勉強会の様子。右端が筆者

建設的な手法を学べた体験を現場に活かそうと、試みています。それにしても、検査室運営者としての視点を意識したセミナーの必修化は、他の医学専門医試験にはなく極めてユニークです。臨床検査専門医会の先生方のセンスを感じます。

一つ要望ですが、厚生労働省の指定した初期研修医の指導要領において、自ら実施し結果判定すべき検査は、①心電図、②超音波検査、③血液ガスの3つのみ(!)です。専門医試験の内容に今なければ、加えていただけないでしょうか。受験する方々に恨まれそうですが、研修医教育に検査医がかかわるには必要だと思います。これらの到達目標、指導法が、現在の悩みの種です。

このように臨床検査専門医は、私にとっては実にタイムリーで、渡りに船そのものでした。今後も部員や研修医とともに知識のbrush upを心がけつつ、近い将来、私と同様に、臨床や基礎を経て“検査の先生”を目指す若い医師が、わが徳島日赤にも来てくれることを望んでいます。

(徳島赤十字病院検査部副部長 山下理子)

臨床検査専門医への道

2010年8月12日に専門医合格の通知をいただきました。私が辿った道を振り返ってみたいと思います。1991年(平成3年)卒の内科医ですが、感染症学および呼吸器病学を専門にしていました。米国留学等もあったため、認定医・専門医の取得は同期と比べやや遅れ気味でした。帰国後に内科認定医(2001年)、感染症専門医(2003年)ならびに呼吸器専門医(2004年)と取得しました。呼吸器専門医受験の際は、周りは若いばかりで、ずいぶん年をとった気がしたことを覚えています。これで、専門医受験も終わりかなと考えておりました。

院内の人事異動に伴い、2006年から検査部勤務になりました。私の仕事は微生物検査室の責任者として、薬剤耐性菌などの重要な菌の動向を把握することや特殊な菌に関する臨床側のコンサルテーションに対応することです。主に呼吸器感染症を診ていた私にとって、臨床全科における分離菌を勉強することは大変でしたが、新鮮な発見も多く充実した時間を過ごせています。微生物のゲノム解析も大きく進歩しており、臨床微生物学においても核酸診断の重要性が高まるものと期待しています。当検査部では、十数年前より遺伝子検査室を設けて腫瘍に関する遺伝子診断に力を入れておりましたが、2010年より感染症核酸検査室を新設し、先進的な微生物検査を推進しています。

異動してまもなくの頃、検査部部長の上平憲教授より「検査医学会に入会して臨床検査専門医を目指しなさい。検査部で働くうえでは大変重要な資格だから」とご指導いただきました。受験するためには、検査分野に学会発表や誌上発表も必要ですので、検査医学会を中心に積極的に活動しました。次に情報収集です。教室の上平教授と山田准教授にいろいろとお伺いしましたが、結論は「勉強しないと絶対受からないが、しっかりやればなんとかなる。」ということでした。他大

学の先輩方からも、「結構大変だよ。特に自分の専門以外をきちんと押さえないと」と適切なアドバイスをもらいました。

まず、試験対策として5月に自治医科大学で開催されたセミナーを受講しました。専門の先生方にわかりやすく講義していただき、理解が深まりました。特にいろいろな実技を行ったことは良かったです。ご参加された先生方でメールにて情報交換できたことも合格につながったと感謝しております。試験勉強としては、テキストで基本をおさえて、セミナーで配られた資料や検査医学会のホームページを活用しました。筆記試験に加えて実技試験対策も必要です。実技試験を課す専門医試験は数えるほどしかないようですが、本試験の特徴となっています。微生物分野に関しては自信がありましたが、他の分野は、教室の先生方や技師の方に大変お世話になりました。電気泳動や血液像に関しては、上平教授と山田准教授に懇切丁寧にご指導いただきました。輸血分野は難所でもあり、やや不安でしたので当院輸血部の長井准教授に、試料を準備していただき、再トレーニングを行いました。

いよいよ試験日になりました。筆記試験は選択式ではなく記述ですので、久しぶりに長い文章を書きました。いつもワープロですので、慣れないせいか右手がかなり疲れてしまいました。実技試験は、臨床化学、臨床免疫学、臨床血液学、臨床微生物学および臨床生理学と順番に受けていきます。難しい問題もあり、分量も多いですから、時間に追われながら頑張りました。私たち受験生も大変ですが、試験の準備ならびに監督もかなりの労力と思われます。試験委員長の慶応大学村田満教授をはじめ、ご担当の先生方に深謝申し上げます。今まで受けたどの専門医試験よりも勉強したことは間違いありませんが、新しい知識の習得や整理になる大変良い機会でした。これからも臨床検査医学分野で精進していきたいと考えております。

(長崎大学病院検査部 柳原克紀)

【編集後記】

このたびの東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災地された地域や各地で避難されている先生方、すべての皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

今回のNEWSは大震災の影響だけでなく、盛岡での春季大会の抄録を都合により同封発送させていただくため、例外的に発送を遅らせました。御多忙中、早くに原稿をご執筆下さいました先生方におかれましては、ご迷惑おかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

今後のNEWS発行ですが、定時に送付するよう努めたいと考えており、8月下旬、11月下旬、来年1月下旬を予定しております。会員の声のご執筆に関してまして、今後ともご支援をよろしく願います。

(編集主幹 東京大学医学部附属病院検査部 金子 誠)

日本臨床検査専門医会

会 長：渡辺清明、副会長：佐守友博、渡邊 卓

常任幹事：

庶務・会計 東條尚子、情報・出版委員長 矢富 裕、教育研修委員長 山田俊幸、資格審査・会則改定委員長 土屋達行、渉外委員長 佐守友博、保険点数委員長 渡辺清明、専門医広告・啓発促進ワーキンググループ委員長 村田 満

全国幹事：安東由喜雄、尾崎由基男、小田桐恵美、康 東天、北島 勲、木村 聡、熊坂一成、幸村 近、小柴賢洋、三家登喜夫、諏訪部章、

田窪孝行、日野田裕治、舩渡忠男、前川真人、松尾収二、三井田孝、満田年宏、宮澤幸久、盛田俊介

監 事：高木 康、水口國雄

情報・出版委員会 会誌編集主幹：池田 均、要覧編集主幹：木村 聡、会報編集主幹：金子 誠、情報部門主幹：大西宏明

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL・FAX：03-3864-0804 E-mail：senmon-i@jacp.org